校内研究の進め方について

西泊中研究部

１　令和６年度の研究指定等

リーディングDXスクール（文部科学省研究指定）

１人１台端末の活用状況を把握・分析するとともに、効果的な実践例を創出・モデル化し、都道府県等の域内で校種を超えて横展開するとともに全国に広げていくことで、全国のすべての学校でICT の「普段使い」による教育活動の高度化を図る。令和５年度は全国で100拠点校（200校)、長崎市では、小榊小と西泊中が指定校となっている。

主な実践事項

①「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

②動画教材の活用、外部専門家によるオンライン授業

③端末の日常的な持ち帰りによる家庭学習の充実等

④校務の徹底的な効率化や対話的・協働的な職員会議・教員研修

⑤実践内容を動画・写真、研修のオンライン公開などにより地域内外に普及

２　研究の核となるキーワード

(1)個別最適な学び

指導の個別化：一定の目標を全ての児童生徒が達成することを目指し、個々の児童生徒に応じて異なる方法で学習を進めることであり、その中で児童生徒自身が自らの特徴やどのように学習を進めることが効果的であるかを学んでいくことなども含む。

学習の個性化：個々の児童生徒の興味・関心等に応じた異なる目標に向けて、学習を深め、広げることを意味し、その中で児童生徒自身が自らどのような方向性で学習を進めていったら良いかを考えていくことなども含む。

(2)協働的な学び：学習者が相互に協力しながら、共通の目標や課題の達成を目指す学び。「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、更にその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、両者を一体的に充実させていくことが求められる。

(3)形成的評価：教育の効果を上げるためには、教授目標に照らして、児童生徒の学習が成立しているかどうかを常に確認しながら学習指導を行うことが大切。このような、教授・学習過程で行われる確認作業が、「形成的評価」。指導の個別化や授業の修正、反省に生かす。

(4)主体的な学び：学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学び。

２００７年に学校教育法が改正され、「学力の３要素」として「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」が定義された。

現行学習指導要領から、学力の３要素に沿って３つの観点に整理された。この３要素をバランスよく育むことが学校教育に求められるようになったが、学校現場では、知識・技能重視の意識から脱却することが難しい。

令和 7 年度長崎県公立高等学校入学者選抜から、各学校で学びの過程を重視する観点から、観点別学習状況の「主体的に学習に取り組む態度」を他の項目より比重を高めて評価するようになり、各中学校での適正な指導と評価が求められる。

３　校内研究構想図

日本国憲法
教育基本法
学校教育法
学習指導要領

教　育　目　標

夢を抱き、信頼し、笑顔のあふれる学校

「進化」　～自主から主体へ～

長崎県教育方針
長崎市教育方針
第五次長崎市教育振興基本計画

めざす学校像	めざす生徒像	めざす職員像
・秩序と活力に満ちあふれた学校	・意欲的に自ら学び、考える生徒＜知＞	・つながり合い、学び合う職員
・地域社会から信頼される学校	・礼儀正しく思いやりのある生徒＜徳＞	・信頼される職員
・自他の命を大切にし、安全で安心できる学校	・健康と安全に心がけ、心身ともにたくましさを持つ生徒＜体＞	・生徒と共に考え、共に歩む職員

校内研修主題　「確かな学力を身につけ、主体的に学び合う生徒の育成」
～　クロームブックとクラウド環境の効果的な活用を通して　～

授業研究	・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による授業改善、学力向上 ・研究授業及び授業研究会の実施 ・ＴＴによる習熟度別指導、個別指導の工夫 ・デジタル教科書及びAIドリルの効果的な活用場面の検討および実践 ・クロームブックの持ち帰りによる家庭学習の充実と授業との連携
小中連携研究	・アウトメディア週間の実施 ・小中連絡会・小中合同研修会の開催 ・小中相互の授業公開及び参観 ・新入生説明会における児童の授業見学 ・出前授業の実施や適宜英語・道徳での授業参観
校務DX研究	・グループウェアやクラウド環境を活用した校務の効率化 ・配布物のペーパーレス化の推進 ・教職員のICT活用力向上研修（ICTを活用した対話的・協働的な研修）

期待する生徒像

○　研修計画

	内　　容
１学期	校内研修実施計画・校内研究構想
	AIドリルやデジタル教科書の活用場面の検討と提案
	小中合同研修会
夏休み	教職員のICT活用力向上研修
	ICTの活用場面を設定した指導案の作成
	校務の効率化についての具体的な検討と提案
	市、県、全国学力調査の結果分析と授業改善の方策
	小中合同研修会
２・３学期	ICTを活用した研究授業の実施（各学年１回） 実践内容のオンライン等での公開
学年末	研究のまとめと今後の課題の明確化

４　研究授業（公開授業）の実施（２・３学期）　授業はすべて撮影し、配信対象とする

	1	2	3	4	5	6	7	8
部会	国語	社会	数学	理科	英語	音・美	技家	保体
メンバー								
授業日								

全体授業者：

○　各部会のメンバーから１名授業者を決定し、２・３学期に公開授業を行う。

○　公開授業は、部会メンバー＋校長、教頭、研究主任は必ず参観。授業が空いている先生もできる限り参観する。年３回は、全体公開授業とし、全員参観し、授業研究会を実施する。

○　授業者以外のメンバーは、指導案作成、プレ授業、データ検証等を行う。

○　９月１日までに指導案を作成し、データを指定のフォルダに提出する。

○　公開授業は、クロームブックを活用した学力向上を実現するものとし、次の３学力のいずれかを選択し実施する。

A　知識・技能　　B　思考力・判断力・表現力　　C　主体的に学習に取り組む態度

※　今年度の学校教育目標は、『夢を抱き、信頼し、笑顔あふれる学校』「進化」～自主から主体へ～であることから、できるだけ、主体的に学習に取り組む態度を育む公開授業の実践が望ましい。

※　授業と家庭学習の連携も図る。

○　今年度は、公開授業を行うだけでなく、効果の検証を行う。

・効果検証のスパンは、１単元が望ましいが、１～２単位時間でも可。

・効果検証の方法は、評価基準に照らして、どの程度の生徒が目標を達成しているか、可能であれば、クロームブックを使わなかったクラスと比較するなどして検証する

・学習指導要領及び国立教育政策研究所の「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料にもとづき、単元や本時で身につけさせたい資質能力（観点）を明確化し、評価基準にそって評価し、効果を検証する。

５　日常の授業におけるＩＣＴの活用

(1)電子黒板

○　デジタル教科書の活用　理科、社会、英語、数学、道徳

○　デジタルコンテンツ　各教科書の QR コード等を利用

○　生徒の考えを共有

※　黒板と電子黒板、Chromebook とノートを併用する。デジタルとアナログのベストミックス。

黒板…１単位時間の学習の流れを構造的に示す。授業の最後に黒板を見て、その授業の軌跡が理解できるもの。めあてとまとめもわかりやすく示す（めあてとまとめの整合性）。

電子黒板…動画や静止画でイメージを具体化したり、生徒と同じ教科書やワークシートを示したりすることができる。構造的に残らない。

※　有線　WinPC　：HDMI　　Chromebook：HDMI→TypeC 変換コネクタ

無線　Transcreen アプリを利用

(2)Chromebook

○　**協働的な学び・個別最適な学びの実現のために活用する**

○　授業における活用の目安

５教科→授業の中で、最低でも週に１回は必ず生徒全員に利用させる。

技能教科→授業の中で、最低でも月に１回は必ず生徒全員に利用させる。

○　キュビナ→国語、社会、数学、理科、英語で個別最適な学びに利用

学習者用デジタル教科書→数学、英語で、個別最適な学びに利用

デジタルコンテンツ→教科書のＱＲコードを読み込むなどして動画や静止画等資料として利用

クラスルーム→課題や資料の配付、回収

フォーム→小テスト、アンケートとして利用。瞬時に答え合わせ、集計、グラフ化が可能

スライド→プレゼン作成や班や全体での協働学習に利用。

ドキュメント→レポート・課題作成、音声入力（日本語、英語)、協働学習に利用。

スプレッドシート→表、グラフ作成、班や全体での協働学習に利用。

クローム→調べ学習やオンラインアプリに利用。

カメラ→動画や静止画を撮影し、発表資料、レポート作成、自分の動作の客観的確認などに利用

６　西泊中ＩＣＴ活用授業モデル　従来の教師主導の一斉授業形式からの脱却　→　一歩前へ！

(1)従来の教師主導の一斉授業の特徴

生徒は教師の指示に従うだけで受け身（×アクティブ）

教師は本時の目標に対する生徒の達成状況の把握と個に応じた指導ができていない

×教えた　→○生徒が本時の内容を習得した（目標を達成した）　※これが本当の学習の保障

×わからないのは生徒のせい　→　○わからない（取り残した）のは教師のせい

(2)目指す授業（生徒の姿）

個別最適な学びと協働的な学びを仕組み、一人も取り残さない授業を目指し、「わかった」「できた」「楽しい」と目を輝かせながら、**自ら進んで学習しようとする生徒**の姿

(3) 西泊中 ICT 活用　授業モデル

～授業前の準備～

①本時で達成されるべき目標を明らかにする（学習指導要領に沿って)。

②すべての生徒が達成すべき最低到達基準（評価基準 B）を定める。

③ICT 活用場面の設定と、教材の準備。

～本時の授業の流れ～

①形成的評価１（レディネス把握のための小テスト）（キュビナ、フォーム等）で本時の学習に必要なレディネスを把握する。

②形成的評価１で、本時の学習に必要なレディネスに達していない場合は、既習内容とのつながりについて説明したり、本時の学習に必要な既習内容の説明を行ったりする。

③めあてを提示する（生徒が「学びたい」と思う魅力あるめあてに！できれば生徒の言葉で)。

④本時の内容の教授・学習・練習・作業等を行う。

※一人では理解や作業が難しい場合や個々の到達度に差がある場合は、チームで協働しながら問

題を解決させる学習を仕組むことも考えられる。★協働的な学び

⑤形成的評価２（生徒の理解度・定着度を把握するための小テスト）（キュビナ、フォーム等）を実施し生徒の到達度を把握するととも

に、生徒には結果のフィードバックを与える。

⑥生徒の達成状況に応じた課題を与える（キュビナ、ジャムボード等）。　★個別最適な学び

⑦本時のまとめを行う（目標、めあてとの整合性！）。

※形成的評価（小テスト）について

・キュビナ、フォーム等の ICT を利用することで、瞬時の採点、生徒へのフィードバック、教師による理解度・定着度の把握、授業の修正が可能になる。また、フォームで作成する手間を省くために、紙と組み合わせる方法もある。紙の小テストを配布し、計算や考え等は小テストに記入させ、解答のみフォームで選択（記入させる）。

・形成的評価（小テスト）を家庭学習として実施することで、ICT 活用における家庭学習と授業の連携が図られる。本時の到達基準に達していない生徒には、補習的指導を行ったり、家庭学習課題を与えたりすることで、到達目標に達するようにする。反転学習（本時の内容を家庭学習として予習させ、本時の学習では、基礎的内容は確認程度にとどめ、発展的内容に時間をとる）などにもチャレンジ！

７　朝の時間の活用

月	朝読書	火	**キュビナ**	水	なし（特６）	木	朝読書	金	心の時間（**タイピング**）

※金曜日は、心の時間を実施しないときはタイピング練習を実施。

※キュビナは、生徒が自分で実施したい教科を選択させて行わせる。

８　Chromebook の使い方　　生徒用プリントをもとに短学活等で確認すること

(1)Chromebook の持ち帰り

平日→充電が切れそうな時や Chromebook を使った課題が出たとき、Chromebook を使った学習を行いたいときに自分の判断で持ち帰りを行わせる。

毎週末、祝日、長期休業前→必ず持ち帰り、フル充電して休み明けに持ってこさせる。

土・日曜日（祝日）、長期休業中には、必ずキュビナを１日１時間以上、実施させる。

キュビナの問題をノートに解いて自学として提出することも可。

※教科担任は、定期的にキュビナの実施状況の確認を行い、進んでいない生徒には声かけを行う。

(2)Chromebook の休み時間の利用

休み時間（昼休み・放課後）も使用可。

※事前に教員に許可をとる。教員は使用内容と場所を把握しておく。

(3)履歴のチェック

・月に一度、短学活の時間に担任が履歴チェックを行う。

・生徒に Chromebook を起動させ、履歴を表示させ、目視で履歴を確認する。

・学習に関係のない検索をしていた生徒には、指導を行う。

（改善が見られない場合は保護者へ連絡）

(4)共有機能

・授業でスライドやジャムボードなどのアプリを共有して協働作業をする場合は、先生の許可を得て、必ず、メンバーの中に先生も追加するように指導する。

(5)情報モラルの育成

・道徳、学活等、短学活等を利用し、生徒の情報モラル育成を図る。

９　デジタル化による校務の効率化

(1)市教委、外部からの文書の紙媒体での文書受付を廃止　※既に実施

(2)職員会議資料の紙媒体での配付を廃止（校務サーバーを利用）　※既に実施

(3)C4th 掲示板の利用による会議の削減　※既に実施

(4)保護者への配付文書、アンケートのデジタル化

(5)欠席連絡を電話からメールへ

(6)指導者用 PC を活用した研修の実施

(7)その他

10　参考となるサイト

１　ながさき GIGA スクール推進サイト「ながさき GIGA ちゃん」＜長崎県教育委員会＞

https://giga.news.ed.jp/top/

各校の実践事例、GIGA スクール情報、 Chrome 端末・Google ツール・Google 目的別活用、研修用動画、学力調査問題などの情報を掲載

２　StuDX Style（スタディーエックススタイル）＜文部科学省＞

https://www.mext.go.jp/studxstyle/

StuDX Style を活用した研修例、１人１台端末の活用シーン、各教科等の指導における ICT の効果的な活用に関する解説動画、各教科での活用のポイントを掲載

３　Google for Education GIGA School サイト＜Google＞

https://giga.withgoogle.com/#content

利活用のための参考動画、先生による実践紹介、教育専門家による ICT 教育政策解説、素材・教材テンプレート等を提供

→活用アイデア集　授業でつかえるツールや教材

https://giga.withgoogle.com/classroom-resources/#video-5804894245748736

４　mextchannel-YouTube＜文部科学省＞

https://www.youtube.com/mextchannel

授業や研修で活用できる動画を多数掲載

５　リーディング DX スクール＜文部科学省＞

https://leadingdxschool.mext.go.jp/

→リーディング DX スクール指定校　最終報告（西泊中学校も掲載あり）

https://leadingdxschool.mext.go.jp/r05/school/

→取組実践

https://leadingdxschool.mext.go.jp/report/